様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｈ０１３４０

研究課題名（和文）中近世アルプス地域の空間的・社会的モビリティー：境域の政治・宗教・社会の動的展開

研究課題名（英文）Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious,and Social Dynamics in Boundary Areas

研究代表者
佐藤　公美（Sato, Hitomi）

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：８０６４４２７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,600,000円

研究成果の概要（和文）：人類社会にとって不可欠な「移動」を歴史的に理解するため、本研究計画は政治的・社会的・宗教的な多文化境域社会＝前近代アルプス地域を対象に、政治文化と空間・領域との関係、文化・知識・技術・モノとの関係、宗教と精神文化との関係の諸側面に渡って移動の諸「資本」の相関関係を分析し、空間移動と社会移動の統合的理解を試みた。その結果、中近世アルプスに固有の密な中小都市網による可動性、帝国周縁の境域性による戦略的リソース性、境域ゆえのネットワーク資本価値の高さ、多言語状況による文化的水平移動可能性、困難な移動の経験や記憶が持つ社会移動資本価値の高さと両義性などの意味が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、可動性、ネットワーク資本、スピリチュアル・キャピタル等の移動の「資本」概念を理論的・方法論的に応用し、中・近世アルプスの地域的特性に注目した実証研究を総合した。これにより空間移動と社会移動を統合し、移動の歴史学研究に貢献したと考える。中近世社会は政治的・社会的・文化的・宗教的な多元的で複雑なアイデンティティーをもつ移動主体からなる部分社会の諸関係からなり、空間移動と社会移動は不可分の関係にある。これらの統合的理解を行った本研究成果は、現代のグローバル・高モビリティー社会の多面的で歴史的な理解を推し進め、地域的固有性とグローバル性の共存という現代的問題解決への一つの貢献をなすと考える。

研究成果の概要（英文）：This project attempted an integrated understanding of spatial and social mobility in the pre-modern Alpine region, that is, a boundary area with political, social, and religious multiculturality. It analysed the correlation of ‘capitals’ of mobility across various aspects of the relationship between political and spiritual cultures in those regions. As a result, it became clear that the following factors of Alpine societies had critical meanings: the network of small- and medium-sized towns as a capital of mobility; the strategic resourcefulness of Alpine areas because of their peripheral position in the Holy Roman Empire; the high value of network capital in the Alpine boundary areas; the cultural mobility due to the multilingual situation; and the high capital value of tough experiences and the collective memory of those experiences throughout the areas as a capital of social and spiritual mobility, although this factor could be ambiguous.

研究分野：ヨーロッパ中世史

キーワード：アルプス　中・近世　空間的モビリティー（空間移動）　社会的モビリティー（社会移動）　スピリチュアル・モビリティー　境域　書物

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

アルプスの交通や文化の伝播に関する研究は 1980 年代から各地域で行われてきた。P・ギショネ編『アルプスの歴史と文明』［Guichonnet 1986 (Lausanne, 1980)］は単なる交通路＝通過点ではない「生きられた空間」としてのアルプスを、J・マチューはアルプス内部の歴史的多様性を強調していた［Mathieu 1998］。日本では踊共二らが多様な文化交錯地域としてのアルプス像を打ち出し［踊 2015］、佐藤公美らはローカルな交流による地域変容を強調した［佐藤 2016］。また上記ギショネらによれば、中世にアルプスは「開かれて」いたが近世にかけて「閉じる」とされていた。一方社会移動に関しては、アルプスが空間的に「閉じる」とされた中・近世という時期の再検討の必要が近年の研究により示されていた。イタリアでは S・カロッチの統括により 2014 年度から 2017 年度の共同研究プロジェクト「中世における社会移動：12―15 世紀」（La mobilià sociale nel medioevo. Secoli XII-XV[Social mobility in the Middle Ages (Italy, XII-XV century)]）が行われ、中世後期以降の社会的モビリティーの低下という従来の見解の再検討を促していた［*La mobilità sociale* 2016-2019；Carocci, Lazzarini 2018］。この理論的前提にはＰ・ブルデューによる社会移動をステイタスをめぐる闘争として捉える視点や、P・ソローキンによる階層移動の「チャンネル」概念の多元性への注目があった［ブルデュー1990 年；Sorokin1927；Carocci 2011］。

２．研究の目的

上記のカロッチの統括するプロジェクトでは空間移動と社会移動の関係という問題が残された。本研究は両者を統合するため中・近世のアルプス地域を対象として設定した。この時期には大航海時代の開始や大旅行という大規模な移動の拡大が見られる一方、山間地域などの中小規模の移動には十分な注意が向けられてこなかった。そこで中・近世ヨーロッパの代表的な「境域」の一つであるアルプス山間地域で空間移動と社会移動の相互連関の歴史的動態を明らかにすることにより、ヨーロッパ中近世という重要な転換点の理解に貢献することを目指した。

３．研究の方法

効果の高い研究活動のため、研究対象を A. 政治文化コミュニケーション空間、B. 宗教文化コミュニケーション空間の２分野に区分し、各メンバーがヨーロッパへの渡航による史資料調査と分析による研究を進めつつ定例研究会を重ね共通の議論を構築することを目指した。また理論的・方法論的議論と個別実証研究を有機的に統合することも目指した。さらにヨーロッパのアルプス史研究の重要拠点であるイタリア・スイス大学アルプス史研究センター（LabiSAlp）の協力を得て、ヨーロッパで定期的に国際的議論を積み上げることを計画した。しかし新型コロナウィルス対策による渡航制限はヨーロッパでの史料調査と実証研究に著しい困難をもたらしたため、スケジューリングの見直しや、当初予想していなかった状況下で得られた成果を活かすことにも努めた。これらの計画調整を柔軟に行いつつ、全体として以下のように研究を進めた。前半は国内研究会での緊密な議論を活かして理論的枠組みの構築と共著論文発表を行い、次いで第 72 回日本西洋史学会大会における小シンポジウムで部分成果のまとめと日本の学界での討論を行った。後半は、国外研究協力者の日本とヨーロッパへの渡航による研究実施について粘り強く計画調整を行い、2022 年度にはカロッチ教授講演会「Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy」を立命館大学で開催し（2022 年 11 月 12 日）、国際ワークショップ Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（2023 年 3 月 15・16 日、イタリア・スイス大学アルプス史研究センター）を行った。最終年度はこれらの成果を総合し、2023 年度の国際学会 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（2024 年 3 月 27～29 日、イタリア・スイス大学アルプス史研究センター）で成果の発表を行った。

４．研究成果

（1）第一の成果は理論面での議論の深化と共著論文の刊行である［猪刈、踊、佐藤、皆川 2022］。P・ブルデユーと N・ルーマンの理論に基づく近世の時代性を踏まえた検討、中・近世の社会移動研究の蓄積の厚いドイツ語圏の研究史の分析とアルプス地域に固有の意義の考察、空間移動と社会移動を接合しうる V・カウフマンらによる「可動性」理論［V. Kaufmann, M. Bergman, D. Joye　2004］と J・アーリによる「ネットワーク資本」論［アーリ 2015 ］の歴史学への応用可能性の吟味、物的資本ではなく精神的リソースに着目した「スピリチュアルキャピタル」論の導入と展開可能性を筆者それぞれが議論し、中・近世ヨーロッパ史での実証研究に活かす方向性をさぐった。

（2）小シンポジウム「モビリティーを生む「書物」――中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合」（第 72 回日本西洋史学会大会）では、書物が地理的・社会的・精神的移動の潜在力を生み出す資本かつネットワークを生み出す資本でもあるという理解の枠組みを提起し、特定の「書物」が持つ資本性と移動の特徴を検証した。

（3）研究計画全体のまとめは、国際学会「Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions」（2024 年 3 月 27～29 日、イタリア・スイス大学アルプス史研究センター）で行った。学会は「理論と展望」「個別研究」「討論 」に分け、「個別研究」を「１．移動空間の形成、維持、交渉：アルプスの地域、間－地域、領土」「２．テキスト、知識、物質文化」「３.アルプス、そしてその向こうのスピリチュアル・モビリティー：宗教的運動と実践」の３セクションで構成した。また発展的な工夫として、報告者とディスカッサンに日欧の新たな研究協力者を加え、新機軸開拓を目指した。理論面については既述の内容と一部重複するため紙幅の都合により省略し、個別研究を各セクションごとに整理し、最後に全体のまとめを行う。
①第 1 部は空間の形成、維持、交渉をテーマとし、どのような移動資本を持つ、どのような移動者が、どのような空間を作ることにより、空間移動と社会・文化移動が関連したのかを考察した。田中俊之「The Grant of the Status of Territories under the Emperor’s Jurisdiction to the Communities of the Alpine Valleys of Switzerland」は、帝国直属特権の喪失という下降の危機に晒された森林諸邦が、近隣諸邦とのローカルな同盟関係を構築したことを明らかにした。これは帝国という政治空間内部での地位の危機という政治的・社会的下降移動の潜在的可能性が、代替的政治空間を生み出した事例と考えられ、14 世紀の「同盟」という現象の理解にモビリティーという観点から新たな光を投げかけると言える。ロベルト・レッジェーロ「Maintenance of alpine infrastructures as a means of communication between local and supra-local powers in the Alps (13th-15th century)」は、中世サイヴォイア公国支配下のアオスタ渓谷と低部ヴァリスの交通路のメンテナンスをめぐる紛争を検討し、交通インフラという空間移動資本のメンテナンスが即ち政治的コミュニケーション行為であり、その「地位」の維持や移動に直接的影響を与えたことを示唆する。佐藤公美「Living and Dying on the move in the Alps: migrant merchants in South Tyrol in Late Middle Ages」は、南北ティロルを移動する商人が移動先の都市メラーノ（メラン）で、死を前に都市の裁判帳簿に残した債務債権記録を分析し、中世ティロル南北の中小中心地間に広がるネットワーク資本と、リスク・マネージメント資本としての都市記録システムの意義を明らかにした。レッジェーロ報告は移動資本をコントロールしメンテナンスする側の文化を明らかにしたが、佐藤報告は移動資本に「アクセス」を持つ側の文化を明らかにしている。ロレンツオ・フレスキ「Clash of Borders. The government of the Venetian territories in the Eastern Alps (late 15th century)」は、ヴェェネツィア共和国支配下のハプスブルク帝国との境界地域であるフリウリ地方を対象に、15 世紀後半の境界紛争において、専門知とローカル・ナレッジのインタラクションが生じ、新たな正当性を与えている実態を明らかにした。境界のコントロールによる空間形成は、次の長谷川報告にも共通する。長谷川裕子「'Peace', Mercenary, and Territorial League (Sokoku Ikki) in Medieval Japan of the Sengoku Period (14-15th centuries)」は、「傭兵」と侍衆の「他国奉公」という人的移動に注目し、移動性と、惣国一揆のような国レベルで一定の閉鎖性をもった地域性との相互関係を検討した。侍衆の他国奉行が作るネットワークと被官関係、中立、同盟は危うい均衡の上に立っており、均衡が崩れると防衛のための地域的同盟へと拡大し惣国一揆が形成されると考えられる。本報告は、惣国一揆の空間形成が、戦国期の地域社会が移動者を包含することによってもたらされる柔軟な可能性と危機の双方の帰結であったことを示している。ビョルト・ジェリアル「Altruistic and redistributive effects of migrations in Italian Switzerland (18th-20th century)」の対象は 19 世紀ティチーノ地域という近代の移民であるが、循環的もしくは定期的移民が出移民地との間に形成した関係を検討し、空間移動による社会移動資本の増加と再分配的投資の循環相を明らかにしており、長期的比較考察のための示唆を与える。
②第 2 部は「移動」の主体として文化・知識・技術・モノを含めて考察し、建築・芸術・設備設計上の技術とテイスト、本・テキスト・知的情報、軍事力と軍事的資源など、多様なモノ、資源、情報が空間を移動し、空間移動とともに特定の社会層を越えて社会的にも上昇・下降の移動が生じる場合と生じない場合がそれぞれの事例で明らかにされた。皆川卓「The cultural-political network of the Italian-speaking Swiss architects and the nobility of Habsburg dynasty in the early baroque era」は文化資本としての「宮廷」を建築の歴史的実態を踏まえて考察し、ホレショフ城の注文主であるヨハン・フォン・ロッタルの大量の書簡から、ハプスブルク帝国貴族がティチーノの石工を活用してハビトゥス支配を実現した背景を探った。そこには①ティチーノ建築集団のモビリティー、②パトロンとなるハプスブルク新興貴族の社会的モビリティー、③30 年戦争時に強制的再カトリック化・プロテスタント住民の追放による荒廃とヴァラキア人の激しい抵抗、その弾圧を経験したモラヴィアにおける宗派のモビリティー、という３つのモビリティーが揃うことが必要であった。また 17 世紀ハプスブルク帝国の宮殿建築市場とティチーノの石工たちの故郷間の頻繁な移動をアルプスの小都市網が可能にしたことも主張した。頼順子「Mobility of Medieval French Hunting Books across the Alps in the Late-Medieval and Early Modern period」はフランスの狩猟書のアルプスを越えた移動による文化の空間移動と社会移動を分析した。狩猟書は王侯貴族の水平的親族関係の中で移動したため、サヴォワ家とフランス王家の婚姻のような政治的状況に応じてアルプスを越えて空間移動した。しかし宮廷を離れて王侯のネットワークの外部に出ると、社会的な下降移動やいったん下降した後の再度の上昇移動が生じることもある。頼の研究は、書物というモノと書物が表す文化を移動主体として位置付け、空間移動と社会移動の関係を類型化して理解したものである。上田耕造「The action of the Duke of Bourbon across boundaries: the mobility of French princes in the early

16th century」は「諸侯国家」の統治者であるブルボン公シャルル 3 世の政治的「逃亡」を分析し、16 世紀フランスの諸侯にとってアルプスを越えた空間移動可能性が政治的・社会的地位の移動・維持の資本であり得たことを明らかにした。上田はこれを消極的な「逃亡」ではなく、「移動」することで状況を好転させるための「積極的行動」としてとらえ、近世初期フランス王権による諸侯領の統合がスムーズに進まなかったことを表していると考える。また、フランス外勢力との人的ネットワークも、ブルボン公の政治的・社会的地位の上昇・下降を左右する資本であった。渡邉裕一「Mobility, Water Management, Technology Transfer: The Imperial City Augsburg and the Alps in the 16th Century」は 16 世紀アウクスブルクの都市外からの技術者の移動が、宗教改革期アルプスの再洗礼派ネットワークと重なり合っていたことを指摘した。初期の再洗礼派指導者ピルグラム・マールペックは、しばしば亡命しながら、アウクスブルクでは材木流しの設備設計技術を持つ技術者として雇用され、再洗礼派指導者としての活動も続けた。他方、同じ再洗礼派であり森林官であったマルティン・プライックナーの会計簿からは、アルプス山間地域で多数の労働者が集団的に移動した実態も明らかにされた。斉藤恵太「Across the Alps into the Habsburg service: Gonzaga family and the military career in the 17th century」は 17 世紀のハプスブルク家に軍事奉仕したゴンザーガ家の軍事キャリア形成から空間移動と社会移動が関連する条件を考察した。ゴンザーガ＝ボッツォロ家兄弟に関する実証成果に基づき、斉藤はイギリス史における財政軍事国家論（J・ブリュア）を発展させた財政軍事システム論（P・ウィルソン）を参照し、17 世紀ハプスブルク帝国が軍事的資源の外部からの供給に依拠する財政軍事システムの好例であり、軍事エリートの社会的モビリティーは、アルプスを越えた人的・物的・社会的資源の移動に依拠するシステムによって支えられていたと考察した。関根浩子「Movement of artists between Sacri Monti in Italy: Focusing on the artistic activities and movements of the Silva family from Morbio Inferiore」は美術史からのサクロ・モンテ研究であるが、これまでのサクロ・モンテ研究には彫刻や堂内装飾に従事した芸術家たちのサクロ・モンテの間の移動や相互影響関係に関する研究が欠けていた。関根はモルビオ・インフェリーレ出身のシルヴァ家の芸術家たち 3 世代の空間移動をともなう活動を分析し、その結果、サクロ・モンテ群の礼拝堂装飾に携わった芸術家の中には、複数のサクロ・モンテ間を移動したり、家族間で仕事を継承しながら制作に従事したりした芸術家たちがいたこと、また、そうした芸術家一家がティチーノにもいたことが明らかになった。服部良久「Collection and Diffusion of Text and Information by the Exchange of the Intellectuals in and around the General Councils in the 15th Century」は、多数の学識ある参加者が一か所に長期間集まった公会議という場を、人、テキスト、情報が集中し文化移動が生じる場として捉え、15 世紀のコンスタンツ公会議とバーゼル公会議においてどのような人物、写本、情報が集まったのかを検討した。さらに公会議開催地の都市空間は、中東欧各地の大学のローカルな知的・文化的伝統とより広範な伝統が接する空間ともなった。その意義は、公会議によるイタリアルネサンスのアルプス以北への浸透という従来の図式を再考させるものである。中町信孝「Mobility and books in the Islamic societies」は、15 世紀のある知識人による遊学の事例から、この時代のマグリブ・マシュリク間における移動と書物・テキストとの関係を分析した。一般に、口頭伝承や対面による知識授与がことのほか重視された前近代のイスラーム世界であるが、メッカ巡礼のためにマシュリクに赴き、その地でイスラーム諸学を修めるという空間移動の結果、郷里での名声を高めるという社会移動の例を明らかにした。また対面による知識の授与も、書面での免状（イジャーザ）による知識の授与も行われ、さらにそのイジャーザは彼の郷里の知人・親戚にまで効力を及ぼしていたことが確認できた。中町は書物が空間移動によって得られる文化資本として機能していたことがうかがえるとする。

③第 3 部は宗教文化分野の研究者を中心に「スピリチュアル・モビリティー」「スピリチュアル・キャピタル」概念を活用し、宗教・精神文化面での移動と空間移動の関連を議論した。図師宣忠「Cathar Heretics on the Move: Religious Mobilities in Medieval Languedoc and Lombardy」は迫害を受け「逃亡」するカタリ派が、13 世紀南仏ラングドックと中北部イタリアの諸地域との間で行った空間移動が、信徒や「完徳者」たちの宗教的・内面的移動とどのように関連し得たかを考察した。カタリ派のネットワーク資本に支えられたアルプスを越える空間移動は両義的であり、それが精神的上昇移動または維持の資本として活かされる場合もあれば、移動先での危機的状況や恐怖の感情などによる異端審問への屈服という精神的下降移動原因となることもあった。有田豊「Spiritual mobility of the Waldenses in the Post-Reformation Alps based on a Protestant perspective」は宗教改革後のヴァルド派の精神的モビリティーをプロテスタントの視点から検討した。ヴァルド派が 16 世紀に改革派系プロテスタントの一派となる過程において、信仰とアイデンティティーを支え、宗教的・内面的な下降の危機を回避する要因となったのが「古来よりキリストの純粋な教えを保持してきた集団である」というヴァルド派の起源伝承であるが、伝承の継承過程で、キリストの純粋な教えを保持した「谷の住民」がヴァルド派であるという「谷」というトポスと不可分に結びついたヴァージョンが 17 世紀に生まれ語り継がれた。有田はヴァルド派史書の詳細な分析により、このヴァージョンが 16 世紀にプロテスタントの視点から構築されたヴァルド派のイメージに立脚しており、ヴァルド派の多様なモビリティーを生み出す源泉となったことを明らかにした。田島篤史「Pilgrimage, Ex voto and Mobility: St. Wolfgang and his Veneration in Upper Austria」は上オーストリアの巡礼地ザンクト・ヴォルフガング・アム・ヴォルフガングゼーにおける聖ヴォルフガング崇敬を検討し

た。同地は15世紀後半から巡礼者を引きつけ始め急速な繁栄を遂げたが、田島はその要因とメカニズムを、大量の聖人伝の出版・流通という15世紀の出版文化史上固有の意義と奉納蝋燭の使用の定着から考察した。田島はこれを、奉納物が空間移動・社会移動・スピリチュアル・モビリティーを生み出し続ける「循環移動」ともいうべきサイクルであると定義する。踊共二「The North American Mennonite and Amish Families of Swiss Descent: Their Spiritual, Spatial, and Social Mobility in the Early Modern Period」はスイス再洗礼派の移動と社会的・精神的移動の事例を分析した。チューリヒ出身のランディス家はヨーロッパ内の移動から大西洋を越えるアメリカ大陸への移動へつながる数世代に渡る空間移動を経験した。その過程で、酪農の知識と技術が経済活動を可能にし、同郷・同信者たちの共有財産となったこと、聖書的信仰による相互扶助も職業的成功と社会的上昇モビリティーをもたらすこともあったこと、独自の書物文化も苛酷な空間移動や社会的下降移動に耐えるスピリチュアルキャピタルとなったことを踊は指摘した。北米では社会的上昇を追い求める文化も生まれた。しかしこのような逆説的な社会的上昇は目的ではなく結果であり、むしろ再洗礼派の行動規範が相互扶助のネットワークという社会共通資本・社会関係資本を育んだことや、独自のアイデンティティティを維持する文化資本により異郷の地にあっても存続し続けることができたことを踊は重視する。猪刈由紀「Rethinking Pilgrimage and Mobility: Alps and Beyond」は19世紀バーゼルを拠点としたドイツ・キリスト教協会（敬虔派）における「巡礼宣教」プロジェクトを検討した。プロテスタントは巡礼に批判的であったが、聖書解釈を重視する敬虔派は、聖書に関する知識や関連言語の習得に努め、ユダヤ教や中東の聖地への関心も養っていた。事務局長クリスチャン・シュピットラーの活動期にはパレスチナ方面への巡礼宣教を組織するが、国際的なネットワークを介しての中東への関わりも深い。猪刈はこのような「巡礼宣教」実現の背景に、ユダヤ教徒やイスラーム教徒との接触機会の増加による潜在的な地理的移動範囲の変化、結社の自由の発達による人的交流、教育機会の増加・拡大、それによる一般信徒の活動機会の増大、新たな終末論的切迫感にも後押しされた宣教活動への新たな地平等により、空間的にも社会的にも潜在的モビリティーが拡大したことを指摘する。マッシモ・デッラ・ミゼリコルディア「Alpine mobility and identity of the parish clergy in the diocese of Como at the end of the Middle Ages. Origin and local relations.」は、教区自治が形成されていった中世後期に地域社会の外部出身の司祭と教区民がどのように行動したかに注目し、北イタリアのコモ司教区を事例として、教区司祭のモビリティーを検討した。15～16 世紀の一般信徒たちは、新しい宗教的・社会的要請を反映した司祭の道徳的振る舞いを強く要請し、地域外出身司祭を戦略的に導入した。司祭の移動が教区民の主導によって引き起こされることもある。移動司祭のリクルートエリアは多様であり、かつ一か所の在職期間にも長短があったが、これらの現実からは、中世後期の教区生活において、極めて多数の司祭が移動し、地域共同体と交渉するという実態と、一般信徒のイニシアチヴが明らかにされたと言える。

以上の各セクションと全体をまとめると、①移動する諸個人を包摂する政治・社会集団間の同盟、インフラのメンテナンス能力、移動中の危機から人々を保護する記録システム、境界に関するローカルな知と専門知等の資本が、空間移動と社会移動を関連づけることが明らかにされた。②建築、芸術、技術、テイスト、本、テキスト、知的情報、軍事的資源など、多様なモノ、資源、情報が空間を移動し、空間移動が社会的・文化的な上昇・下降と関連する場合のそれぞれの特徴が明らかにされた。③スピリチュアル・モビリティーとスピリチュアル・キャピタルに注目すると、空間移動による危機や困難が精神的下降移動をもたらすこともあれば、困難な移動経験が歴史・記憶・伝承としてアイデンティティーを支え上昇移動をもたらすこともあった。これらの各側面の成果を総合すると、中近世アルプスに固有の特徴として、①密な中小都市網が提供する独特の可動性、②帝国周縁の境域である事実が与える固有の戦略的リソース性、③境域性が生み出す人的ネットワーク（ネットワーク資本）の資本価値の高さ、③多言語状況が生み出す文化的水平移動可能性、④移動の困難さそのもの人的経験や記憶が持つ社会移動資本価値の高さと両義性等が明らかになったと言えるだろう。

引用文献

・P・ブルデュー、石井洋二郎訳『ディスタンクシオン――社会的判断力批判 Ⅰ・Ⅱ』、藤原書店、1990年；S. Carocci, ‘Social Mobility in the Middle Ages’, *Continuity and Change* 26 (3), 2011, 367-404；S. Carocci, L. Lazzarini (eds.), *Social Mobility in Medieval Italy (1100-1500)*, Roma, 2018；P. Guichonnet (ed.), *Storia e civilizzazione delle Alpi*, Milano 1986 (Lausanne, 1980)；猪刈由紀・踊共二・佐藤公美・皆川卓「モビリティーの歴史学のために――中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提――」『甲南大學紀要　文学編』、第172、199 – 213頁、2022年；V. Kaufmann, M. Bergman, D. Joye, ‘Motility: Mobility as Capital’, *International Journal of Urban and Regional Research*, 28-4, 2004, 745-56；J. Mathieu, *Geschichte der Alpen 1500-1900: Umwelt, Entwicklung, Gesellschaft*, Wien-Köln-Weimar 1998；*La mobilità sociale nel medioevo italiano*, 1-5, Roma, 2016-2019；踊共二編『アルプス文化史　越境・交流・生成』（昭和堂、2015年）；佐藤公美編『アルプスからのインターローカル・ヒストリー――＜地域＞から＜間地域＞へ――』（佐藤公美研究室、2016年）；P. Sorokin, *Social Mobily*, 1927 [*Social and Cultural Moblity*, 1959]；J・アーリ（吉原直樹・伊藤嘉高訳）『モビリティーズ：移動の社会学』作品社、2015年。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 踊共二	４．巻 別冊（特集号）
２．論文標題 失われた故郷を探して：メノナイトとアーミッシュの大西洋横断ネットワーク	５．発行年 2021年
３．雑誌名 武蔵大学総合研究所紀要別冊(特集号)	６．最初と最後の頁 97-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 猪刈 由紀、踊 共二、佐藤 公美、皆川 卓	４．巻 172
２．論文標題 モビリティーの歴史学のために　―中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 甲南大學紀要.文学編 = The Journal of Konan University. Faculty of Letters	６．最初と最後の頁 199～213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00004206	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡邉裕一	４．巻 49
２．論文標題 アルプス地域～南ドイツにおける移動と技術移転―ピルグラム・マールペックの事例から―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 九州歴史科学	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田島篤史	４．巻 21
２．論文標題 迫害の歴史から被迫害者の歴史へ―カルロ・ギンズブルグ『ベナンダンティ』刊行50周年に寄せて―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 資料学の方法を探る	６．最初と最後の頁 114ー120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 皆川 卓、ミナガワ タク	4．巻 81
2．論文標題 西暦一五〇〇年前後の西南ドイツにおける人文主義者、政治と地域的アイテ?ンティティ（<特集>ルネサンスにおけるテクスト・知識人・政治）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 史苑	6．最初と最後の頁 31～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00020423	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 踊共二	4．巻 174
2．論文標題 再洗礼派とかくれキリシタン	5．発行年 2020年
3．雑誌名 季刊民族学	6．最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邉裕一	4．巻 58
2．論文標題 帝国都市アウクスブルクにおける水の利用とその管理（シンポジウム「ヨーロッパ史における水の資源化とその管理・統制」）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 西洋史学論集	6．最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 斉藤恵太	4．巻 10
2．論文標題 近世イタリアの君主国と三十年戦争―マントヴァ継承問題にみる国のかたちの諸相	5．発行年 2020年
3．雑誌名 世界史研究論叢	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 頼順子	4．巻 78
2．論文標題 〈史料紹介〉近世初頭の狩猟書における写本と版本の融合――トリノ国立文書館所蔵史料J.a.IX.4の場合――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 史窗	6．最初と最後の頁 147-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 猪刈由紀	4．巻 74
2．論文標題 【研究ノート】バーゼルから見る二つの寛容――ドイツ・キリスト教協会と二つの宗教令 オーストリア（1781）とプロイセン（1788）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 キリスト教史学	6．最初と最後の頁 230-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 斉藤恵太	4．巻 143
2．論文標題 デンマーク戦争（1625-29）再考ー国のかたちという視点から	5．発行年 2023年
3．雑誌名 京都教育大学紀要	6．最初と最後の頁 79-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 斉藤恵太	4．巻 144
2．論文標題 近世バルト海東部における二つのヴァーサ家の抗争ースウェーデンとポーランド＝リトアニアの合同と対立	5．発行年 2024年
3．雑誌名 京都教育大学紀要	6．最初と最後の頁 87-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田島篤史	4．巻 2023年12月号
2．論文標題 聖ヴォルフガング巡礼ー伝説と史実のはざまでー	5．発行年 2023年
3．雑誌名 隔月インタビュー	6．最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 踊　共二	4．巻 274
2．論文標題 再洗礼派のディアスポラと社会的モビリティ：チューリヒのランディス家の場合	5．発行年 2023年
3．雑誌名 西洋史学	6．最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toshiyuki Tanaka	4．巻 15号
2．論文標題 The Everlasting League of 1291 in Switzerland as a Defense against the Habsburgs? : Recent Perspective and the Process of its Formation	5．発行年 2023年
3．雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集［史学・考古学篇］	6．最初と最後の頁 47-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 服部良久	4．巻 6
2．論文標題 コンスタンツ公会議（1414-1418 年）における「うわさ」と「公共圏」」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 フェネストラ	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 頼順子	4．巻 80
2．論文標題 [研究ノート]消されゆくアンヌ・ド・フランスの記憶 ： トリノ国立文書館所蔵資料J.a.VII.31の記述を巡って	5．発行年 2023年
3．雑誌名 史窗	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計54件（うち招待講演　23件／うち国際学会　43件）

1．発表者名 Hitomi Sato
2．発表標題 Reflection from the project Spatial and social mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine regions: Political, religious, and social dynamics in boundary areas
3．学会等名 Communication Maintenance in Longue Dure'e（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 田中俊之
2．発表標題 スイス史再考：14世紀のはじめ
3．学会等名 金沢大学公開講座（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 有田豊
2．発表標題 ヴァルド派の歴史②――宗教改革参加とプロテスタント化――
3．学会等名 日本キリスト教会・府中中河原教会・公開講座（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Sandro Carocci
２．発表標題 Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy
３．学会等名 Sandro Carocci 講演会 Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Professor Sandro Carocci's Lecture Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy. Opening remark
３．学会等名 Sandro Carocci 講演会 Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Area. Opening remark
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Roberto Leggero
２．発表標題 Mobility, defense, and maintenance of Alpine passes of supra-local significance in the mountains of Ticino in the late Middle Ages
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Taku Minagawa
２．発表標題 Mobility of architects from Ticino in the early baroque court culture; from the will of Filiberto Lucchese (1606-1666)
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Atsushi Tajima
２．発表標題 Repraesentationen der Mobilitaet: Exvoto in den oberoesterreichischen und niederbayerischen Wallfahrtskirchen
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yuki Ikari
２．発表標題 Deutsche Christentumsgesellschaft and information circulation. Inside and outside of its publishing policy
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Tomoji Odori
２．発表標題 The Amishman Jonathan B. Fisher's Homecoming Visit from Pennsylvania to Switzerland in the Early 20th Century. A Prelude to the Amish and Mennonite Transatlantic Heritage Tours
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Borut Zerjal
２．発表標題 Migration and development in the border areas of the Swiss and Slovenian mountains: a comparative perspective (18th - 20th century)
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Junko Rai
２．発表標題 Mobility of Medieval French Hunting Books across the Alps in the Early Modern Period: The case of BnF MS. fr.616.
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kozo Ueda
２．発表標題 The escape of Charles III, Duke of Bourbon across the Alps: The Duke of Bourbon's network in the early 16th century
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Nobutada Zushi
２．発表標題 Coming Back from Lombardy: Cathar Heresy and Mobility in Thirteenth- and Early Fourteenth-Century Languedoc
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Massimo Della Misericordia
２．発表標題 Mobilita' alpina e identita' del clero curato. Problemi generali e prime note sulla ricerca in diocesi di Como
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoshihisa Hattori
２．発表標題 Social and spatial mobility of the local elite in the Grisons and South Tirol in the Late Middle Ages
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Dying on the move in the Alps: a case study of a migrant merchant in South Tyrol in the 15th century
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Nobutaka Nakamachi
２．発表標題 A Tunisian scholar in Medieval Cairo: Knowledge transmission from al-Ayni to al-Washtati and beyond
３．学会等名 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Taku Minagawa
２．発表標題 Zur politischen Kommunikation der Staende in Suedwestdeutschland-Formen und Funktionen der Korrespondenz des schwaebischen Bundeshauptmann Wilhelm Besserer 1489-1495
３．学会等名 Der Medialitaet des Briefes; Diplomatische Korrespondenz im Kontext frueneuzeitlicher Briefkultur（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Introduction
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Living and Dying on the move in the Alps: migrant merchants in South Tyrol in Late Middle Ages
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Hitomi Sato
２．発表標題 Intorno al libro di Luca Zenobi Borders and the Politics of Space In Late Medieval Italy
３．学会等名 tavola rotonda: Luca Zenobi Borders and the Politics of Space In Late Medieval Italy（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 佐藤公美
２．発表標題 趣旨説明（小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合）
３．学会等名 第72回日本西洋史学会大会、小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hiroko Sekine
２．発表標題 Movement of artists between Sacri Monti in Italy: Focusing on the artstic actibities and movements of the Silva Family from Morbio Inferiore
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Yasuko Hasegawa
２．発表標題 'Peace', Mercenary, and Territorial League (Sokoku Ikki) in Medieval Japan of the Sengoku Period (14-15th centuries)
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Keita Saito
２．発表標題 Across the Alps into the Habsburg service: Gonzaga family and the military career in the 17th century
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Atsushi Tajima
２．発表標題 Pilgrimage, Exvoto and Mobility: St. Wolfgang and his Veneration in Upper Austria
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 田島篤史
２．発表標題 モビリティーの諸表象ードイツ語圏の巡礼教会に奉納されたエクス・ヴォートー
３．学会等名 第104回　シュンポジオン（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 田島篤史
２．発表標題 15世紀ティロール伯領における魔女問題とモビリティー
３．学会等名 第72回日本西洋史学会大会、小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合
４．発表年 2022年

１．発表者名 中町信孝
２．発表標題 コメント：モビリティー、書物、境域～西アジア史の観点から
３．学会等名 第72回日本西洋史学会大会、小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合
４．発表年 2022年

１．発表者名 Nobutaka Nakamachi
２．発表標題 Mobility and Books in the Islamic Societies: A Tunisian intellectual in Cairo
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Tomoji Odori
２．発表標題 The North American Mennonite and Amish Families of Swiss Descent: Their Spiritual, Spatial, and Social Mobility in the Early Modern Period
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Toshiyuki Tanaka
２．発表標題 The Grant of the Status Territories under the Emperor's Jurisdiction to the Communities of the Alpine Valleys of Switzerland
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 有田豊
２．発表標題 宗教改革以降のヴァルド派史書―起源伝承の変容とその社会的影響―
３．学会等名 第72回日本西洋史学会大会、小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yutaka ARITA
２．発表標題 Spiritual mobility of the Waldenses in the Post-Reformation Alps based on a Protestant perspective
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Yuichi Watanabe
２．発表標題 Mobility, Water Management, Technology Transfer: The Imperial City Augsburg and the Alps in 16th Century
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medeieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Yoshihisa Hattori
２．発表標題 Collection and Diffusion of Text and Information by the Exchange of the Intellectuals in and around the General Councils in the 15th Century
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Yuki Ikari
２．発表標題 Rethinking Pilgrimage and Mobility: Alps and Beyond
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Nobutada Zushi
２．発表標題 Cathar Heretics on the Move: Religious Mobilities in Medieval Languedoc and Lombardy
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 頼順子
２．発表標題 14世紀後半-16世紀サヴォワにおけるフランス宮廷の狩猟文化の移転－フランス語の狩猟書を例にー
３．学会等名 第72回日本西洋史学会大会、小シンポジウム2 モビリティーを生む「書物」：中近世ヨーロッパ内境域アルプス世界の場合
４．発表年 2022年

１．発表者名 Junko Rai
２．発表標題 Mobility of Medieval French Hunting Books across the Alps in the Late-Medieval and Early Modern period
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Kozo Ueda
２．発表標題 The action of the Duke of Bourbon across boundaries: the mobility of French princes in the early 16th century
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Taku Minagawa
２．発表標題 The cultural-political network of the Italian-speaking Swiss architects and the nobility of Habsburg dynasty in the early baroque era
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Sandro Carocci
２．発表標題 Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Roberto Leggero
２．発表標題 Maintenance of alpine infrastructures as a means of communication between local and supra-local powers in the Alps
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Massimo Della Misericordia
２．発表標題 Alpine mobility and identity of the parish clergy in the diocese of Como at the end of the Middle Ages. Origin and local relations
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Lorenzo Freschi
２．発表標題 Clash of Borders. The government of the Venetian territories in the Eastern Alps (late 15th century)
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Borut Zerjal
２．発表標題 Altruistic and redistributive effects of migrations in Italian Switzerland (18th-20th century)
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Takako Kamiya
２．発表標題 Closing Discussion
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Luca Zenobi
２．発表標題 Closing Discussion
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Marta Gravela
２．発表標題 Closing Discussion
３．学会等名 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 皆川卓
２．発表標題 押尾・渡邊両報告を受けて―中近世移行期のマイノリティから見る体制の包摂と排除の構造について
３．学会等名 九州西洋史学会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 皆川卓
２．発表標題 中世末期の神聖ローマ帝国軍制 フス戦争期を中心に
３．学会等名 第81 回早稲田大学西洋史研究会大会（招待講演）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計7件

１．著者名 Sarah Alyn Stacey, Joanna Poetz, Marina Benedetti, Caterina Menichetti, Lothar Vogel, Andrea Giraudo,Alfonso Tortora, Georg Modestin, Marco Bettassa, Yutaka Arita,Marianne Cailloux,Marco Fratini, Patricia E. Mckee	４．発行年 2021年
２．出版社 Peter Lang Verlag	５．総ページ数 360
３．書名 New Perspectives on Heretical Discourse and Identities: The Waldensians in Historical Context	

１．著者名 蔵持重裕、櫻井彦、根本崇、 窪田涼子、則竹雄一、長谷川裕子、朝比奈新、 徳永裕之、黒田基樹、小林一岳、遠藤ゆり子、稲葉継陽	４．発行年 2021年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 352
３．書名 日本中世社会と村住人	

１．著者名 齊藤 寛海、西川洋一、山辺規子、髙田京比子、高山博、城戸照子、和栗珠里、根占献一、中平希、佐藤公美、亀長洋子、三森のぞみ、北原敦、宮崎和夫、皆川卓、徳橋曜、北田葉子、藤内哲也、松本典昭	４．発行年 2021年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 756
３．書名 イタリア史２	

１．著者名 中野隆生・加藤玄編著、上田耕造、図師宣忠［他］	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 388
３．書名 フランスの歴史を知るための50章	

１．著者名 佐々木啓・高松百香・長谷川裕子・大橋幸泰・三村昌司	４．発行年 2024年
２．出版社 大月書店	５．総ページ数 280
３．書名 深化する歴史学	

１．著者名 森原隆（編）、奥村優子、唐澤晃一、白川太郎、皆川卓他著	４．発行年 2024年
２．出版社 成文堂	５．総ページ数 356
３．書名 ヨーロッパ「統合」の再検討	

１．著者名 上田耕造ほか	４．発行年 2023年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 232
３．書名 西洋史の扉をひらく：通史とテーマ史でたどる古代から現代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	服部　良久 (Hattori Yoshihisa) (80122365)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	踊　共二 (Odori Tomoji) (20201999)	武蔵大学・リベラルアーツアンドサイエンス教育センター・教授 (32677)	
研究分担者	田中　俊之 (Tanaka Toshiyuki) (00303248)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	皆川　卓 (Minagawa Taku) (90456492)	山梨大学・大学院総合研究部・教授 (13501)	
研究分担者	上田　耕造 (Ueda Kozo) (10760621)	明星大学・教育学部・教授 (32685)	
研究分担者	渡邉　裕一 (Watanabe Yuichi) (30804314)	福岡大学・人文学部・准教授 (37111)	
研究分担者	斉藤　恵太 (Saito Keita) (20759196)	京都教育大学・教育学部・准教授 (14302)	
研究分担者	有田　豊 (Arita Yutaka) (30771943)	立命館大学・政策科学部・准教授 (34315)	
研究分担者	田島　篤史 (Tajima Atsushi) (40802765)	愛媛大学・法文学部・講師 (16301)	
研究分担者	図師　宣忠 (Zushi Nobutada) (60515352)	甲南大学・文学部・教授 (34419)	
研究分担者	頼　順子 (Rai Junko) (50721809)	佛教大学・公私立大学の部局等・非常勤講師 (34314)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	猪刈　由紀 (Ikari Yuki) (10773583)	清泉女子大学・文学部・非常勤講師 (32632)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	小林　一岳 (Kobayashi Kazutake)		
研究協力者	長谷川　裕子 (Hasegawa Yasuko)		
研究協力者	中町　信孝 (Nakamachi Nobutaka)		
研究協力者	関根　浩子 (Sekine Hiroko)		
研究協力者	神谷　貴子 (Kamiya Takako)		
研究協力者	レッジェーロ　ロベルト (Leggero Roberto)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	カロッチ　サンドロ (Carocci Sandro)		
研究協力者	デッラ・ミゼリコルディア　マッシモ (Della Misericordia Massimo)		
研究協力者	ガンベリーニ　アンドレア (Gamberini Andrea)		
研究協力者	デル・トレディチ　フェデリコ (Del Tredici Federico)		
研究協力者	ゼノビ　ルカ (Zenobi Luca)		
研究協力者	フェレンテ　セレーナ (Ferente Serena)		
研究協力者	ラッザリーニ　イザベッラ (Lazzarini Isabella)		
研究協力者	ベッラバルバ　マルコ (Bellabarba Marco)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	タヴィアーニ　カルロ (Taviani Carlo)		
研究協力者	フレスキ　ロレンツォ (Freschi Lorenzo)		
研究協力者	ジェリアル　ビョルト (Zerjal Borut)		
研究協力者	グラヴェーラ　マルタ (Gravela Marta)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 Sandro Carocci講演会 Studying Social Mobility in (late) Medieval Italy	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Workshop: Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions	開催年 2024年～2024年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	ローマ・トル・ヴェルガータ大学	ミラノ・ビコッカ大学	トリノ大学	他3機関
スイス	イタリア・スイス大学アルプス史研究センター			
英国	エディンバラ大学			
スロベニア	プリモルスカ大学			

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	アムステルダム大学			